

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 令和3年度3月号

○ 概要

- (1) 令和3年度3月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は7,194億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+1.5%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は10,013円（伸び率+1.7%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,807億円（伸び率+1.2%）薬剤料が5,374億円（伸び率+1.5%）、薬剤料のうち、後発医薬品が1,084億円（伸び率▲4.1%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,829円（伸び率+1.6%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.70種類（伸び率▲0.6%）、28.9日（伸び率+3.3%）、75円（伸び率▲1.0%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料4,189億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+56億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39その他の代謝性医薬品の744億円（伸び幅+38億円）で、伸び幅が最も高かったのは42腫瘍用薬の+51億円（総額495億円）であった。（→P.13～19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	4,189 億円 (+56 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(744 億円)	21 循環器官用薬 (682 億円)	11 中枢神経系用薬 (617 億円)
0歳以上	18.8 億円	44 アレルギー用薬 (8.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.3 億円)	61 抗生物質製剤 (1.7 億円)
5歳未満	(▲3.3 億円)			
5歳以上	99.7 億円	44 アレルギー用薬 (46.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (27.7 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.9 億円)
15歳未満	(▲1.3 億円)			
15歳以上	1,542 億円	11 中枢神経系用薬 (301 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(284 億円)	21 循環器官用薬 (210 億円)
65歳未満	(+31 億円)			
65歳以上	974 億円	39 その他の代謝性 医薬品(210 億円)	21 循環器官用薬 (183 億円)	42 腫瘍用薬 (155 億円)
75歳未満	(▲6 億円)			
75歳以上	1,554 億円 (+35 億円)	21 循環器官用薬 (285 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(243 億円)	11 中枢神経系用薬 (191 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では10,013円（伸び率+1.7%）で、最も高かったのは高知県（12,200円（伸び率+1.1%））、最も低かったのは佐賀県（8,308円（伸び率+2.5%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは徳島県（伸び率+5.9%）、最も低かったのは茨城県（伸び率▲0.2%）であった。（→P.31～32）

«後発医薬品の使用状況について»»

【後発医薬品割合】(→P39)

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注)}	82.1 %	▲0.0 %
薬剤料ベース	20.2 %	▲1.2 %
後発品調剤率	78.8 %	+1.2 %
(参考) 数量ベース（旧指標）	59.1 %	+0.0 %

注) [後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】(→P.40~41)

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.1 %	+3.3 % (50歳以上 55歳未満)	▲13.0 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.2 %	28.9 % (100歳以上)	14.1 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	82.1 %	86.8 % (100歳以上)	76.0 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】(→P.46~50)

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	911 億円 (▲62 億円)	21 循環器官用薬 (256 億円)	11 中枢神経系用薬 (161 億円)	44 アレルギー用薬 (107 億円)
0歳以上 5歳未満	6.3 億円 (▲1.7 億円)	44 アレルギー用薬 (3.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.5 億円)	61 抗生物質製剤 (0.3 億円)
5歳以上 15歳未満	21.8 億円 (▲4.6 億円)	44 アレルギー用薬 (16.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (2.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.5 億円)
15歳以上 65歳未満	324 億円 (▲14 億円)	21 循環器官用薬 (75 億円)	11 中枢神経系用薬 (68 億円)	44 アレルギー用薬 (61 億円)
65歳以上 75歳未満	209 億円 (▲19 億円)	21 循環器官用薬 (76 億円)	11 中枢神経系用薬 (26 億円)	23 消化器官用薬 (24 億円)
75歳以上	350 億円 (▲23 億円)	21 循環器官用薬 (105 億円)	11 中枢神経系用薬 (65 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)

【後発医薬品 都道府県別】(→P.55~60)

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,509 円	1,952 円(北海道)	1,261 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲3.9%	▲1.2 %(宮崎県)	▲6.1 %(福井県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	82.1 %	89.2 %(沖縄県)	78.5 %(徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.2 %	23.5 %(鹿児島県)	17.2 %(京都府)
後発医薬品調剤率	78.8 %	84.5 %(沖縄県)	74.4 %(東京都)
(参考) 旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.1 %	66.6 %(沖縄県)	55.2 %(東京都)

[利用上の留意点]

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年度3月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。